

CCS教育事業協同組合

企業の生産性・経営の質向上に貢献

「チャレンジ」「創造」「スペシャリスト」を運営ビジョンに掲げて事業を展開する CCS 教育事業協同組合。これまで九州域内で着実に実績を積み重ね、組合員から高い評価と信頼を得ている。



李環宇 代表理事

三つの柱で組合員をサポート

CCS教育事業協同組合は、主な事業目的に①外国人技能実習生の受け入れ事業②人材教育および情報の提供に関する事業③共同購買に関する事業④福利厚生に関する事業一を掲げて、2021年6月に設立された。

同組合の運営ビジョンを李環宇代表理事は「人権重視のヒューマン教育で国際貢献や地域貢献をサポートすること」と説明する。具体的に同ビジョンは「チャレンジ」「創造」「スペシャリスト」という三つの柱を組合員が資質として涵養することを志向している。「チャレンジ」とは、各分野で積極的に挑戦する意欲を磨き育てること、「創造」とは、各専門分野で新しく創造できる能力の開発指導、「スペシャリスト」とは、各専門分野のスペシャリストを要請する教育指導、を指す。このビジョンを具現化するため同組合は、組合員の相互扶助の精神に基づいて組合員のために必要な共同事業を行うことで、組合員が自主的に経済活動できるようにサポートし、さらに、経済的地位の向上を図ることを目指して活動している。

李代表理事は「信頼がおけて、実績のある送り出し機関と組むという、優秀な人材を獲得する条件を満たしていることが当組合の強み」と語る。同組合が現在、契約しているベトナムとインドネシアの送り出し機関は「どちらも信頼できるビジネスパートナー」（李代表理事）だ。例えば、技能実習生として日本で働くことを希望する人は、母国での面接前に3カ月ほど日本語を学んでから採用面接を受ける。面接の合格者は、さらに半年間、母国で日本語や日本の生活習慣、企業用語などを勉強するため、来日時の日本語能力は基本的な

日本語を理解できるN4レベル近くに到達している。李代表理事は「実習生が日本での仕事や生活にスムーズに入れるのは、来日前に実施する充実した学習支援体制が整っていることが大きい」と語る。

質が高い入国後の座学講習

意欲の高い人材を採用することはもちろん、経営や技術の知識を習得して労働生産性を向上する人材を育成してきたことも同組合の特徴の一つだ。そうした姿勢はまず、実習生の入国後に実施される講習で培われる。福岡県内にある研修センターでは、実施期間の会社概要の指導のほか、会社内の専門用語の習得、安全・衛生・医療・保健指導、配属先における方言や文化の学習、配属先や職種に応じた「5S+1」（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ+安全・衛生）の学習などが実施される。さらに、日本語教育や日本の生活習慣の指導も行うなど、実習生がスムーズに職場や日本での生活に慣れるように配慮している。実習期間中のメンタルケアも欠かさない。

李代表理事は「外国人材の育成を担うグループ会社『環日中ビジネスサポート』とも連携し、特定技能支援や留学生の派遣など企業を総合的にサポートできる強みを生かしながら着実に実績を積み重ね、九州経済を支える中小・小規模事業者にとって不可欠な存在でありたい」と語る。

CCS教育事業協同組合

Challenge Creative Specialist
Education business cooperative association

住所：福岡市博多区博多駅前2-19-17 トーカン博多第5ビル407
TEL：092-409-0875 URL：http://www.ccscoop.or.jp/